

今日のキーワード 「景気拡大は長期化」する見込み（米国）

設備投資に在庫投資を加えた固定投資と、税引後利益に減価償却費などを加えたキャッシュフローの差をファイナンス・ギャップ（資金差額）といいます。投資を実施するのに必要な資金のうち、どの程度を自己資金で賄ったかを測る指標です。ファイナンス・ギャップのプラス幅が拡大するほど、企業が設備投資に対して積極的、逆の場合は消極的になっていることを示しています。

ポイント1

ファイナンス・ギャップは5四半期連続のプラス プラスの幅は縮小傾向

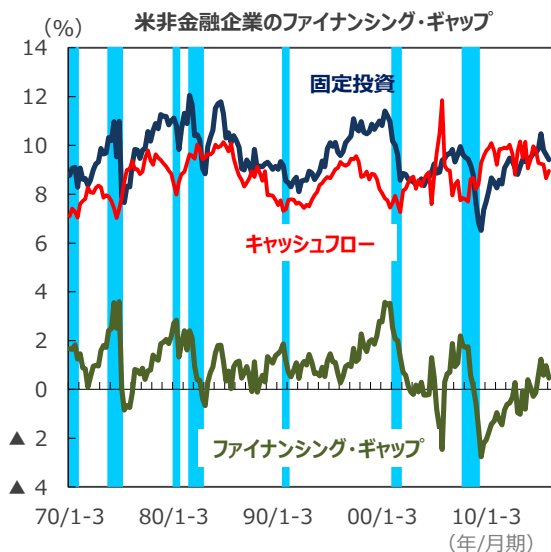
■米連邦準備制度理事会（FRB）の財務勘定統計によれば、2016年1-3月期の米非金融企業のファイナンス・ギャップは、年間ベースに換算すると832億ドル、対GDP比で+0.46%でした。5四半期連続のプラスですが、15年4-6月期の+1.24%をピークに低下傾向にあります。

ポイント2

設備投資に慎重な姿勢 キャッシュフローが伸び悩み

■ファイナンス・ギャップのプラス幅が縮小している原因は、企業が設備投資をキャッシュフローに近い水準に抑えようとしていることにあります（キャッシュフローとは、税引後利益と減価償却費を合計し、そこから配当金や役員賞与を差し引いたものです。減価償却とは、長期間にわたって使用される資産の購入のために支払った費用を、その資産が使用される期間にわたって配分することをいいます。）。

■実際、設備投資に在庫投資を加えた固定投資の対GDP比を見ると、15年4-6月期の10.48%を当面のピークとして2016年1-3月期の9.41%まで低下。キャッシュフローとのかい離が縮小しました。



(注) データの期間は1970年1-3月期～2016年1-3月期。すべて対GDP比。網掛は景気後退期。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

今回の景気拡大局面は息の長いものになる見込み

■企業は身の丈に合った投資を実行

このことは、米国の企業が、身の丈に合った投資を行っていること、つまり無理をしないように努めていることを示すものです。戦後最悪といわれた前回の景気後退を経験した、その学習効果と見られます。

■設備投資の拡大余地は大きい

過剰な投資を行っていないわけですから、過剰な設備や在庫が発生することはなさそうです。裏返せば、企業に対する調整圧力が発生する可能性は小さく、今回の「景気拡大は長期化」すると考えられます。

ここも チェック!

2016年6月16日 米国の金融政策（2016年6月）

2016年6月 6日 米国の雇用統計（2016年5月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。